

アドバンス

胎教アドバイザー®

資格取得ガイド

胎教アドバイザー®は、家族の“きずな”づくりとおなかの赤ちゃんに
よい環境づくりのお手伝いを応援するスペシャリスト。
つまり、胎教の先生です！

胎教アドバイザー®アドバンス資格者は、
社会課題の解決を視野に入れながら、
地域や専門家、他の胎教アドバイザー®と連携しながら、
日本胎教協会の胎教アドバイザー®活動を柔軟な実践力で対応できることが期待されます。



以下は、特許庁で登録されています。

- ◆ 胎教協会 ◆ 登録第 5624502 号
 - ◆ 胎教アドバイザー ◆ 第 5624503 号
- 指定役務並びに役務の区分
第 1 6 類 印刷物
第 4 1 類 胎教の知識の教授

各ページに掲載の内容を無断で転載、複製することを禁じます。

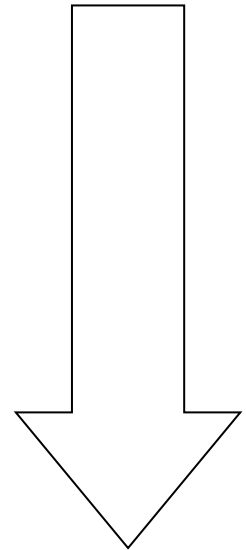
2018 [日本胎教協会](#)

step① 胎教アドバイザー®資格講座 実践アドバンスコース（中級レベル）

◆ 科目と内容、学習時間の目安

科目	内容	学習時間の目安
1.胎教講習	<ul style="list-style-type: none"> ・胎教講習（導入編） ・胎教講習（妊夫・妊婦用） ・胎教講習テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> 👣 6 時間 🏠 12 時間
2. 実践 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ法™ ・語りかけ ・タッチング 	<ul style="list-style-type: none"> 👣 3 時間 🏠 3 時間
3.胎教と産後	<ul style="list-style-type: none"> ・月別の胎教例 ・週別の胎教例 	<ul style="list-style-type: none"> 👣 3 時間 🏠 5 時間
4.実習（応用）	<ul style="list-style-type: none"> ・場所と日時を決める ・プログラムの組み方 ・地域との連携 ・広報、伝える手段 ・胎教講習アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 👣 2 時間 🏠 8 時間

受講の流れ



課題

実践

- ◎ 試験合格の対策
- ◎ 受験申請書で
step② のお手続き

- ◆ 対象 : 胎教アドバイザー®資格者（通学 12 時間参加を含む）
- ◆ スクーリング 14 時間（参加必須、会場は京都） 2018 年は、5/22（火）、23（水）
偶数月の水～金より、ご都合がよい 2 日間（10～18 時）を 3 か月前までにご指定ください。
京都は観光で大変混み合いますので、5 か月ぐらい前から宿泊所を確保してください。
- ◆ 教材（お持ちの教材があればお知らせください。）
 - ・胎教講習（妊夫・妊婦用）
 - ・胎教講習（指導者用）
 - ・胎教講習（導入編）
 - ・実習（応用編）
 - ・胎教と産後、イメージ法™
 - ・課題 1 冊
 - ・絵本など胎教講習で使用するもの
- ◆ フォロワー : 1 年間
- ◆ 定員 : 各回 3～5 名
- ◆ 学費 : 177,000 円（税別、分納可）

[受講お申し込み](#)

step② 胎教アドバイザー®アドバンス試験

❖ 胎教アドバイザー® 資格試験の内容

胎教アドバイザー®が地域に貢献するために必要な知識、胎教講習（実践技能）の習得を目指す。

❖ 受験資格

日本胎教協会のアドバンスコース胎教アドバイザー®（中級レベル）修了者

❖ 試験内容と方法

胎教講習テキスト（参加者用）、胎教と産後、実習課題より、短答式、選択式、論文式、実技

❖ 試験日程

通学最終日より2か月後

❖ 時間

80分

❖ 試験方法

オンライン試験（受験申請時に詳細お知らせいたします）※2018年度は、通学最終日に実施。

❖ 検定料

8,000円

❖ 期待される活動場面

1. 胎教アドバイザー®の胎教講習、胎教に関する活動を通して、育児負担の軽減を目指し、子育てが楽しくなる家庭づくりの援助を行う。
2. 明るく子育てがしやすい社会環境づくりの活動に参加し、広い世代対象に「家族のあり方」「命の尊さ」を学ぶ機会を提供することが期待される。
3. 産院や関係施設での胎教に関するセミナー開催、胎教の教室運営、仕事のステップアップ、これから出産を迎える世代の生涯学習ために活用することを目的とする。
4. 自身の得意、特技を生かした斬新な発想で、その地域の胎教アドバイザー®が活動しやすい道を切り拓くことで、地域に根差した妊娠初期からのおなかの赤ちゃんの子育て支援の充実につなげる。
5. 胎教アドバイザー®をはじめ、各方面の専門家と連携し、社会資源を活かし、社会課題の解決を考慮しながら、自由なアイデアでより明るい社会づくりに貢献する。

